

# 国語科学習指導案

4年1組 32名 指導者 赤石 裕樹

今回の授業は、以下の検証を行うものである。

「三角ロジック」を用いて事実と理由付けを読み分けることは、筆者の主張の論理を読む手立てとして有効であったか。

1 単元 きょうみをもったところを発表しよう（教材名「大きな力を出す／動いて、考えて、また動く」）

## 2 目標

筆者の主張と、事実と理由付けとの関係を捉えて読むとともに、筆者の論理構成を生かし、興味をもったところに対しての自分の考えを発表することができるようにする。

## 3 単元で育成する資質・能力（評価規準）

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
頭や心の働きを表す表現について理解している。	○ 事実と考えを読み分け、それらと主張との関係を捉えている。（読むこと） ○ 自分の考えを発表し合い、一人一人の感じ方や考え方の違いに気付いている。（読むこと）	「工夫して、考えて、自分のもとめる答えをさがし出した人のことが書かれた本」に興味をもち、進んで読もうとしている。

## 4 単元について

### (1) 単元について

本単元は、「きょうみをもったところに対して、友達が納得するように自分の考えを発表しよう」という言語活動を設定することで、論理的に文章を読む力や論理的に表現する力、「工夫して、考えて、自分のもとめる答えをさがし出した人のことが書かれた本」を、進んで読書をしようとする態度を身に付けることをねらいとしている。

教材「大きな力を出す／動いて、考えて、また動く」は、身体を題材に双括型で書かれた文章であり、「中」の部分が事実と理由付けにより構成されている点で共通しており、「三角ロジック」を用いて、筆者の主張の論理を読むことに適している。

ここでの学習は、段落どうしの関係を考えるとともに、文章全体における段落の役割について考える単元「段落どうしの関係をとらえ、説明のしかたについて考えよう」（教材「アップとルーズで伝える」）の学習につながるものである。

### (2) 子供について

本学級の子供は、これまでの説明的な文章の学習において、「初め」に問いあるいは話題提示があり、「中」に答えがあって「終わり」でまとめるもの、「終わり」に答えがあって「中」が答えに至るプロセスである文章構成を多く読んできている。また、教材「すがたをかえる大豆」や「ありの行列」の学習では、各段落の中心になる文に着目しながら段落相互の関係を読んできている。一方、双括型の説明的な文章を読んだ経験が少なく、筆者の主張を裏付ける事実と理由付けを読み分け、これらの関係を捉えることはまだ難しいところがある。

そこで本単元では、「三角ロジック」を用いて、筆者の主張とそれを裏付ける事実と理由付けの関係（筆者の論理）を捉え、それを生かしてきょうみをもったところに対して自分の考えを発表し合い、お互いに交流できるようにする。

### (3) 指導について

導入では、関連図書を読み聞かせした後、「三角ロジック」を用いて、単元のゴールとなる発表のモデル（担任自作）を提示し、それを基に課題づくりに取り組ませる。そうすることで、興味をもったところに対して、友達が納得するように自分の考えを発表することへの課題意識を明確にすることができるようにする。展開では、まず、第一教材「大きな力を出す」を読んで、その学びを生かして、第二教材「動いて、考えて、また動く」を主体的に読んでいく。これらの教材を読む際には、個人で読んだことをグループで交流する場面を設定することで、読んだことを説明したり分からなかったことを質問したりして、互いの読みを深めることができるようにする。また、「三角ロジック」を用いて、主張、事実、理由付けを分けて考え、それらの関係性を

捉えていくことで、教材文に書かれた筆者の主張の論理を読んでいく。そうすることで、論理的に理解したり、論理的に表現したりする力を高めていくようにする。終末では、第二教材「動いて、考えて、また動く」の中で、興味をもったことに対して、自分の考えをまとめて発表し合う。その際、友達が自分の考えに対して納得してもらえるように、「三角ロジック」を用いて、論理的にまとめるようにする。また、単元を通して、繰り返し三つの視点で振り返ることで、学んだことを自覚させたり、次時の学習につなげたり、実生活や実社会の中で生かすことができるようにする。

## 5 指導計画（総時数 8 時間）

○重点化する「全ての学習の基盤となる資質・能力」

過程	主な学習活動【評価規準】	時間	基盤となる資質・能力					
			言	情	問	実	協	振
課題をつかむ	1 発表のモデルを分析し、課題を話し合い、単元の学習課題と計画を設定する。  きょうみをもったところに対して、友達が納得するように自分の考えを発表するには、どのように読めばよいだろうか。  【態：発表のモデルを読み、それを書くために何を学ぶべきなのか見通しをもっている。】	1	○		○			○
	2 「三角ロジック」を用いて、第一教材「大きな力を出す」の文章構成や主張、事実、理由付けの関係を捉える。 【思：事実と理由付けを読み分け、それらと主張との関係を捉えている。】	2	○		○			
情報情報をもと読み取る	3 「三角ロジック」を用いて、第二教材「動いて、考えて、また動く」の文章構成と主張を捉える。	1	○	○			○	
	4 「三角ロジック」を用いて、第二教材「動いて、考えて、また動く」の事実と理由付けを読み分ける。	1 (※)	○	○			○	
	5 第二教材「動いて、考えて、また動く」の「三角ロジック」を完成させ、筆者の主張の論理を捉える。 【思：事実と理由付けを読み分け、それらと主張との関係を捉えている。】 【知：頭や心の働きを表す表現について理解している。】	1	○	○			○	
主体的に表現する	6 第二教材「動いて、考えて、また動く」の興味をもったところに対して、「三角ロジック」を用いて自分の考えをまとめる。	1	○	○		○		
	7 興味をもったところを発表し合い、単元で学んだことを振り返る。  ・事実と理由付けを読み分けて、筆者の主張と関連付けて読めばよい。 ・自分の主張だけでなく、それに合った事実と理由付けも合わせて伝えるとよい。  【思：自分の主張に合わせた事実と理由付けを考えている。】 【思：一人一人の感じ方や考え方の違いに気付いている。】 【態：「工夫して、考えて、自分のもとめる答えをさがし出した人のことが書かれた本」に興味をもち、進んで読もうとしている。】	1	○		○		○	

## 6 本時（5/8）

### (1) 目標

事実と理由付けを読み分け、事実と理由付けの関係を捉えることができるようにする。

### (2) 評価規準

事実を「したこと」、理由付けを「筆者の考え」として、事実と理由付けを読み分けて整理することで、事実に対して、それぞれ理由付けがあることに気付いている。

【思考力・判断力・表現力等】

### (3) 指導に当たって

#### ア 主体的な学びの視点

三つの視点で振り返らせることで、事実と理由付けの読み分け方を自覚したり、「三角ロジック」を完成させるという次時の学習を見通したりすることができるようにする。

#### イ 対話的な学びの視点

個人で学んだことをグループで交流する場面を設定し、学んだことを説明したり分からなかったことについて質問したりして、主張と関連付けて事実を捉えることができるようにする。

#### ウ 深い学びの視点

「三角ロジック」を用いることで、主張と事実を関連付けて読み、筆者の主張を論理的に理解することができるようにする。

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ・見通す	8	1 前時までの学習を振り返る。 ・ 前時は、主張の根拠を読んだよ。 ・ よし、この時間は、根拠を事実と理由付けに読み分けよう。 2 本時のめあてを確認する。 事実と理由付けは、どのように読み分ければよいのだろうか。 3 教師の補説を聞き、学習の進め方に見通しをもつ。 ・ 「大きな力を出す」では、事実を「したこと」、理由付けを「筆者の考え」として読み分けたよね。	○ 前時に読んだ主張の根拠を掲示することで、本時は根拠を更に事実と理由付けに読み分ける学習であることを確認することができるようにする。 ○ 第一教材「大きな力を出す」の全文シートや「三角ロジック図」を確認することで、事実を「したこと」、理由付けを「筆者の考え」として読み分けたことを思い起こすことができるようにする。また、課題解決の見通しをもつことができるようにする。
調べる	30	4 教材に書かれた事実と理由付けを読み分ける。 (1) 一人で検討する。【10分】 ・ 「大きな力を出す」と同じように読んでいくと、事実と理由付けを読み分けられるぞ。 (2) グループで検討する。【10分】 ・ 事実も理由付けも表を使って、順に並べると、作品の構成がよく分かるね。 ・ 「大きな動作で走ると最後まで力がつづかない」(事実)と「大きな動作で走ると速く走れるということにぎもんを感じた」(理由付け)はつながっているぞ。他の事実にも理由付けはつながっているのかな。 (3) 全体で検討する。【10分】 ・ 三つの事実それぞれに、必ず一つは理由付けがあるぞ。事実と理由付けはつながっているんだね。 ・ 事実は「動く」、理由付けは「考える」という言葉で言い換えられるね。これは、題名とつながるね。やっぱり題名を読むことは大切なんだね。	○ 子供一人一人に根拠を切り分けた紙を用意することで、子供がその紙を操作しながら、事実と理由付けを読み分けることができるようにする。 ○ 表を用いることで、事実と理由付けのつながりに気付くことができるようにする。 ㊦ グループでの話し合いを取り入れることで、多様な友達の考えを理解し、自分の考えに効果的に反映させていくことができるようにする。 ○ 事実と理由付けと題名を比べさせる発問をすることで、事実が「動いて」、理由付けが「考えて」の部分にあたることに気付くことができるようにする。 ※ 事実を「したこと」、理由付けを「筆者の考え」として、事実と理由付けを読み分けて整理することで、事実に対して、それぞれ理由付けがあることに気付いている。(発言・ワークシート) 【思考力・判断力・表現力】
まとめる・生かす	7	5 本時の学習の振り返りをする。 (内) 事実と理由付けを読み分けるには、事実を「したこと」、理由付けを「その人の考え」として読めばよい。事実に対してはそれぞれ理由付けがある。 (活) グループや全体で検討することで、自分では気付かないことに気付くことができた。 (次) 事実と理由付けを読み分けたから、次時は「三角ロジック」が完成させてみせるぞ。	○ 「学習内容」「学習活動」「次時への意欲や見通し」の三つの視点から本時の学びの振り返りをさせることで、本時の学びを自覚化し、次の学びへ意欲が高まるようにする。 ○ 「三角ロジック図」や学習計画表を用いることで、次時の学びへの見通しをもつことができるようにする。

